事例No.	2762
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般財団法人こゆ地域づくり推進機構

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・歳入確保

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

こゆ地域づくり推進機構による
地方創生の取り組み

出典

令和３年度ふるさとづくり大賞事例集



ふるさとづくり大賞 ―団体表彰―

こゆ地域づくり推進機構による
地方創生の取り組み

一般財団法人こゆ地域づくり推進機構



取組の概要

一般財団法人こゆ地域づくり推進機構は、平成 29 年3月に新富町が出資して設立した団体である。町は、観光協会を役場内で運営していたが、様々な社会課題を、行政だけで解決することが難しくなっており、これら課題を克服するために同協会を発展的に解散して、ソーシャルビジネスを手がけることに特化した同法人を設立するに至った。

その目標は、地域に活力を生む手段として地方経済を成長させること、そして生産活動の拡大により雇用を創出することである。さらには、魅力ある仕事や地域を創出することによって、町に帰ってくる若者や町に移り住む人々の増加を図ることとしており、『新富町まち・ひと・しごと総合戦略』に基づいて、町とともに発展することを目指している。

取組のプロセス

2017年3月

- 行政だけではふるさと納税事務が発展しない。
- 地域の特産品の開発が進まない

きっかけ 町が出資してこゆ地域づくり推進機構設立

2017年～

- 町が補助金交付

地域のブランディングを開始

- 国内でも 3％しかない国産ライチを一粒 1,000 円でブランディングして販売
- 生鮮野菜を中心に厳選して集めた農産物を「こゆ野菜セット」として定期販売する
- ふるさと納税事務を受託し、令和２年度までに 50 億円以上の寄附金を集める



2018年～

- 町内に空き家・空き店舗が目立ち始め、産業の担い手が不足

地域の遊休施設を再活用

- 空き店舗や空き家を再生した有効活用や新規事業創出を本格化させる
- チャレンジフィールド（こゆ財団オフィス）、こゆ野菜カフェ、民泊「茶心」、新富アグリバレーなど開業



2019年～

- 産学官の協力体制強化
- 社会課題解決に関心の高い企業や大学からの注目を集めることで、さらなる協業機会が生まれる

全国的な知名度と地域課題解決の取組みが注目を受けて、産学官連携が進む

- こゆ財団をきっかけに関係が生まれたユニリーバ・ジャパン・ホールディングスと新富町が連携協定締結。新富町に設置されるサッカー専用スタジアムの命名権を付与する対価として、社会課題解決のための事業連携を進める



2020年～

さらなる関係人口創出へ

- 町内への本格転入やベンチャー設立など企業連携が加速。町との協業を希望する事業者も現れ、産業の厚みを目指す取り組みを開始する



今後の展望

- **関係・交流人口拡大プロジェクトの推進により、企業連携を拡大**
- **起業家の育成のための人材育成を推進し、産業の厚みを増す取り組みを推進する**

DATA

事例名：『地方創生の取り組み』
　　一般財団法人こゆ地域づくり推進機構（通称：こゆ財団）
所在地：宮崎県児湯郡新富町富田東２丁目 1-1
連絡先：TEL　0983-32-1082
　　FAX 0983-32-1082
　　E-mail info@koyu.miyazaki.jp
ホームページ：https://koyu.miyazaki.jp

